対象作品／塚本勝巳著『うなぎ一億年の謎を追う』学研教育出版

研究って楽しいな

弘前大学教育学部附属小学校　別宮志郎

ぼくは地球ぎを回しながら、たまごから太平洋の海流に運ばれ成長する、うなぎの幼魚を想ぞうしました。

うなぎは、さけとは反対に海でふかし、川で十年ほどくらし、たまごをうみにまた海に帰ります。そして、さけのように成長の仕組みが分かっていないため、うなぎの完全ようしょくはむずかしいです。実けん室でたまごからうなぎをようしょくすると、ほとんどがオスになってしまいます。試行さくごしてホルモンざいなどをあたえ、たまご、プレレプト、レプト、シラス、クロコ、黄うなぎ、銀うなぎと成長させます。うなぎ研究者のちょ者は、自然界でそれぞれの成長かていのうなぎをつかまえれば、うなぎがどのように海をい動し、成長するかが分かると考えて、広い海でうなぎをさがします。

ぼくは、小学一年生の時からアリの研究とし育を始め、今年で四年目になります。ぼくがし育をしているアリが行う行動「おしりをゆかにたたきつける、ドラミング（ぼくが命名）」があります。ぼくはこの本を読んで、まだ自然界のアリがドラミングを行うのを見ていない事に気付きました。そして、自然界でもアリはドラミングをするかたしかめたくなりました。今までの研究からドラミングをするじょうけんは分かっているので、自然界でも試してみましたが、まだ見れていません。もっとじょうけんを考えてかんさつを続けていきます。

本の中では、レプトのようにあまり苦ろうしないでつかまるものもあれば、プレレプトのようにつかまえるのに十四年もかかったものもありました。プレレプトさがしは、「ゆめの計画」でした。

せん水ていヤーゴをマリアナの海にもぐらせるために、たくさんの人の協力がありました。それでもプレレプトが見つからなかった時、ちょ者はなみだをながしました。本には「人は悲しいとき、うれしいとき、くやしいとき、感動したとき、なみだを流します。この場合、そのどれでもないのに、なぜかなみだがでてきました。」と書いてあります。ぼくは、

協力してくれた人への感しゃのなみだだと思いました。

ぼくは、うなぎのことを知りたくてこの本を読みましたが、海の面白い事がたくさん書いてありました。海水塩分のう度が場所によってちがう事、それによって海流が起こる事。生き物は周りのかんきょうにてき応しているため、一つの生き物を研究するという事は、周りのかんきょうも研究する事になります。研究するとたくさんの不思ぎに出会う事ができ、そして、それが研究の面白さだと思いました。地球には、まだまだ不思ぎがたくさんあります。ぼくも、地球がかくしているなぞをかい明したいです。